

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
(グローバル展開プログラム)

研 究 成 果 報 告 書

「道元の世界観:分析アジア哲学的アプローチ」

研究代表者: 出口康夫

(京都大学・文学研究科・教授)

研究期間: 平成 28 年度 ～ 令和 元 年度

1. 研究基本情報

課題名	グローバル人文学: 日本文学・芸術・思想の普遍性の探求
研究テーマ名	道元の世界観: 分析アジア哲学的アプローチ
責任機関名	京都大学
研究代表者(氏名・所属・職)	出口康夫(文学研究科・教授)
研究期間	平成 28 年度 ~ 令和 元 年度
委託費	平成 28 年度 1,755,000 円
	平成 29 年度 6,821,360 円
	平成 30 年度 4,368,000 円
	令和 元 年度 2,808,000 円

2. 研究の目的

日本やアジアの思想は国際的にも知られ、海外における研究業績も豊富である。だが海外の学界において、それは長年、エキゾチックな宗教・神秘思想ないしは文化伝統として扱われ、現役の哲学思想として真剣な批判的検討の対象となることは少なかった。このことは、海外のアジア思想の専門家が、大学の哲学科ではなく、宗教学科やアジア研究の部署で遇されてきたことから分かる。道元とその周囲の思想家の思想(禅・天台・華嚴思想や京都学派からなる道元の世界観)に関しても同様である。だが近年、状況は劇的に変わりつつある。例えば哲学プロパーの学会である北米哲学会太平洋部会でアジア思想をテーマとした初のパネル発表が組まれたのは 2012 年だが、2016 年の同部会での同様のパネル数は 22 件に達したのである。

このアジア思想の突如の哲学化を牽引しているのは、分析哲学者や論理学者による「アジア思想を(場合によっては非古典論理を動員しつつ)現代的に再構成した上で、それを現代の議論水準に照らして擁護する」という新しい研究動向、即ち「分析アジア哲学」である。本研究は、この分析アジア哲学のアプローチを採用し、「道元の世界観」を現代的に再構築した上で、そこから現代哲学の最前線に寄与する洞察を剔抉する。そのことで、日本の伝統思想を現代哲学として現役化させる一つの突破口を切り開くことが目指される。

「分析アジア哲学」は、90 年代後半に、主として英語圏で興った新潮流であるが、近年、アジアの哲学的勃興を受けて、アジアにおいてもその研究の裾野は広がりつつある。そのような中で、研究代表者は、21 世紀初頭から、いち早く、分析アジア哲学の代表的研究者との共同研究を開始し、その研究対象が東アジアの仏教思想や京都学派哲学に拡張適用される際に主導的な役割を果たした。このような研究代表者の業績は、分析アジア哲学に関心を持つ海外、特にアジアの研究者の間ではよく知られており、例えば、代表者が所属する研究室は若手研究者の派遣先として台湾政府が認定する The Top Labs in the World の一つに三期連続で認定され、分析アジア哲学を研究する台湾の若手研究者を受入れている。このような情勢を踏まえると、代表者の研究室は分析アジア哲学研究のアジアにおけるハブとなりうる可能性を十分に持っていると言える。道元の世界観をテーマとする今回の国際共同研究を一つの契機として、道元や京都学派などの日本哲学のみならず、広くアジア思想一般を研究対象とする分析アジアの国際研究ネットワークを、同研究室を一つのセンターとして構築することで、アジア、ひいては世界における日本の人文学のプレゼンスを向上させることが目指された所以である。

3. 研究の概要

日本曹洞宗の開祖・道元はまた、日本を代表する「哲学者」でもある。この道元の世界観を、現代哲学、特に英語圏で盛んな分析哲学との対話を通じて、現代哲学として再生し、その今日的意義を明らかにすることが本研究の目的であった。その際、本研究では、道元の世界観に影響を与えた中国の禅思想を始めとする南・東アジアの様々な思想潮流や、西田幾多郎に代表される京都学派の哲学など、道元の影響を受けた近現代日本哲学からなる、道

元を結節点とする思想系譜、すなわち「道元の宇宙」全体を視野に入れた研究を遂行した。また本研究は、単なる思想史研究の枠を超えて、道元の哲学に触発される形での新たな現代哲学の展開をも目指した。

これらの研究目的を達成するため、本研究では国際的・学際的な研究チームを編成した。具体的には、英語圏を代表する哲学者・論理学者・仏教学者を共同研究者に迎えると共に、国内からは哲学者のみならず論理学者や数学者も研究チームに加えた。また本研究は、研究成果の国際発信を重視し、全ての研究会を英語で実施するとともに、主たる研究成果を英語で出版すべく準備を進めてきた。2017 年度には京都で、2018 年度にはニューヨークで国際ワークショップを開催する一方、複数の国内ワークショップを開催し、海外研究協力者とはスカイプ等を用いた密接な共同研究を行なった。

その結果の一端は、研究代表者・出口康夫と海外協力研究者(J.Garfield, G.Priest, R.Sharf)に加え研究分担者・藤川直也も執筆に参加した英文共著 What Can't Be Said: Paradox and Contradiction in East Asian Thoughts としてまとめられ、同書は Oxford University Press から 2020 年前半に公刊されることが決定済みである。加えて、研究代表者と研究分担者(藤川直也・佐金武・三谷直澄・護山真也等)が、現在、英文の単著・共著論文の執筆を進めている。これらの論文は、国際雑誌の特集号論文として掲載された後、研究チーム内外の執筆者による論文を加えた上で、The Cosmos of Dōgen という英文論文集として刊行される予定である。本研究は当初の予想を超えた波及効果を生んだ。第一に、道元の自己論に触発される形で出口が Self-as-We という自己論を構想し、それを現在英文単著 Self and Contradiction として執筆中であること。また第二、道元ないしその思想圏を巡る国際研究ネットワークが英語圏や東アジア・シンガポールを超えて東南アジア大陸部にも広がったことである。

4. 研究プロジェクトの体制

	氏名	所属機関	役割分担
研究代表者	出口康夫	京都大学・文学研究科・教授	研究統括・分析アジア哲学的分析
グループリーダー	一ノ瀬正樹	武蔵野大学・グローバル学部・教授	研究統括補助・死生学的分析
グループリーダー	稲賀繁美	国際日本文化研究センター・教授	研究統括補助・美学的分析
分担者	藤川直也	東京大学・総合文化研究科・教授	分析アジア哲学的分析
分担者	護山真也	信州大学・学術研究院人文科学系・教授	仏教学的分析
分担者	早川正祐	東京大学・人文社会系研究科・特任准教授	死生学・ケアの哲学的分析
分担者	佐野勝彦	北海道大学・文学研究院・准教授	論理学的分析
分担者	三谷尚澄	信州大学・学術研究院人文科学系・准教授	哲学的分析
分担者	佐金武	大阪市立大学・文学研究科・准教授	時間論的分析
分担者	大森仁	ルール大学ボーフム・第一哲学科・Junior-Professor	論理学的分析
分担者	大西琢朗	京都大学・人社未来形発信ユニット・特定准教授	論理学的分析

5. 研究成果及びそれがもたらす波及効果

本研究の研究活動は、少なからぬ国際的反響を呼び、現時点でも、研究計画時の想定を超えた波及効果を見

せ始めている。具体的には、本研究で開催された国際ワークショップ等への参加を通じて、計画当初時には本研究には加わっていなかった国内外の研究者が本研究に加わるようになったことが挙げられる。その中には、Stephan Jenkins (Humbolt State University)、Xiaolin Wang (香港城市大学)、Kanit Sirichan (チュラロンコン大学)、San Tun (ヤンゴン大学)、Kunchapudi Srinivas (Pondicherry University)、Rebecca Maldonado (メキシコ自治大学)、Mikaella Perina (University of Massachusetts Boston, マルティニーク出身) 各教授が含まれる。

このように本研究が構築を目指した分析アジア哲学の研究ネットワークは、当初の想定地域、即ち北米・台湾・韓国・シンガポールを超えて、東南アジア大陸部(タイ・ミャンマー)、香港、中米(メキシコ・マルティニーク)、インドへと拡大することとなったのである。

6. 今後の展開

本研究を通じて、自己論こそが道元思想の根幹であることが改めて確認された。また、その道元の自己観は、「全体論的・身体的(行為的 enactive)・超二項対立的(不二的)」という特徴を持つことも、これまた明らかとなった。そして、道元が語る(ない)は暗黙裏にコミットしている「矛盾」とは、彼の自己観の第三の特徴、即ちその「不二性」の概念的・論理的表現に他ならないことも確認された。さらに、上記「全体論的・身体的・超二項対立的自己」観は、道元の世界観において、様々に変奏されつつ、広く受け入れられている考えであることも、これまた明らかとなった。このような道元ないしその世界観の哲学的な核心が明るみに出されたことを受け、現在、二つの更なる研究展開が視野に入れられている。

第一は、自己観を一つの軸として、古典的ないし近現代的アジア思想・哲学を包括的に読み直す、分析アジア哲学の思想史的プロジェクトである。さらに、この思想史プロジェクトは、上記の分析アジア哲学研究のネットワークの拡張を踏まえ、狭義のアジア思想に留まらず、中南米思想等、世界各地の様々な非西洋型思想を視野に入れた、自己を主題とする「世界哲学」的な思想史研究への道を拓くものとなることが期待される。このような見通しに立ち、現在、研究代表者は、Self: From Asian to Beyond と題された英文論文集の構想を立て、本研究のネットワークを介しつつ、世界各地の様々な文化的背景を持った哲学者に対して、同書への執筆を呼びかけつつある。

第二の研究展開は、上記の道元的自己観を、現代哲学として再生する哲学的プロジェクトである。研究代表者は、道元思想から受け継いだ自己観を Self-as-We (われわれとしての自己)として定式化し、それを現役の自己論として哲学的に再生させるべく、Self and Contradiction と題された英文単著を、現在、執筆中である。

また研究代表者は、これらの論文集・単著をも含めたアジアに関する(ないしアジア的視点に立った)人文社会科学の英文ブックシリーズ、Book Series on Asian Humanities を英語圏の学術出版社から刊行すべく、現在、交渉中である。「アジア人文学」を標榜するこのブックシリーズの構想は、本研究を通じて、着想され、肉付けされたものであり、これまた、本研究の一つの発展形であるといえるものである。

【研究成果の発表状況等】

論文

- 出口康夫、『〈ポスト 3.11〉メディア言説再考』、ミツヨ・ワダ＝マルシアーノ編 第5章「ポスト 3.11 と代受苦の思想」、pp.113-137, 法政大学出版局, 2019.2. (査読あり)
- Fujikawa, F. (2018). 'Exploring Routley's Nuclear Meinongianism and Beyond', Australasian Journal of Logic, 15:2, 41-63. (査読あり、オープンアクセス)
- 護山真也「有時管見——道元の時間論とB系列の時間論——」、『信州大学人文科学論集』6: 19-31 (2019.3) (査読あり)

あり, オープンアクセス)

- Naozumi Mitani, The World in Which Everything is the Self: The Philosophy of the Original Image and Pan-Self-Isim, in Jay Garfield (Ed.) Wilfrid Sellars and Buddhist Philosophy: Freedom from Foundations, Routledge, 2019. (査読あり)
- Naozumi Mitani, Beyond Monism and Pluralism: On Dogen's Pan-Seil-Ist Turn of Metaphysics, under review.
- Shinya Moriyama, "Buddhist Philosophy in Two Japanese Cross-Philosophical Approaches," Newsletter of the American Philosophical Association, 18/2, Spring 2019, pp. 24-27. (査読なし(依頼論文), オープンアクセス (https://www.apaonline.org/page/asian_newsletter))

講演

- Yasuo Deguchi, "Self as Anyone: Dōgen viewed from analytic Asian philosophy," An International Workshop on the Cosmos of Dōgen, 2017 年 6 月 22 日.
- Yasuo Deguchi, "Self as Anyone: Dōgen viewed from analytic Asian philosophy," An International Workshop on Self and Paradox in Dōgen and Tanabe, 2017 年 7 月 15 日.
- Yasuo Deguchi, "Self as Anyone: Dōgen Viewed from Contemporary Philosophy", 台大哲学系連続講演 台大哲学系, 国立台湾大学, 2017 年 11 月 6 日.
- Yasuo Deguchi, "Dōgen and Nishida on Self: An Introduction to Analytic Asian Philosophy", AIS Guest Lecture Series, Department of Asian and International Studies, City University of Hong Kong, 2017 年 11 月 23 日.
- Yasuo Deguchi, "Self as Anyone," A Workshop on Dōgen, 2018 年 3 月 7 日.
- Naozumi Mitani, "Trailblazing with Dōgen," A Workshop on Dōgen, 2018 年 3 月 7 日.
- Naoya Fujikawa, "Eloquence of silence," A Workshop on Dōgen, 2018 年 3 月 7 日.
- Takeshi Sakon and Shinya Moriyama, "Dōgen on time and self," A Workshop on Dōgen, 2018 年 3 月 7 日.
- Casati, F. and Fujikawa, N. (2018). 'How to Quine Meinong', The 2nd Veritas Philosophy Conference, April 13-15, 2018, Yonsei University. (招待有り、国際会議)
- Deguchi Yasuo, Self as Anyone: Dōgen & Environmental Philosophy, 2018.4.28, The 3rd Biennial International Conference of the Group 4 Universities in East Asia on Buddhist Studies, National Taiwan University. (国際会議)
- Deguchi Yasuo, Late Nishida Naturalized, 2018.5.5, Key Note Speech, The 2018 International Graduate Conference on Asian Philosophy, Seoul National University. (国際会議)
- 出口康夫, 自己と生き方: 後期西田哲学からの視座, 2018.5.9, 2018 年第 3 回こころ研究会, こころの未来研究センター, 京都大学.
- Deguchi Yasuo, Green Nishida: Late Nishida's Self and Its Potentiality for Eco-philosophy, 2018.6.25, Seminario Internacional de Filosofía Japonesa, Facultad de Filosofía y Letras, Universidad Nacional Autónoma de México. (国際会議)
- Deguchi Yasuo, Suffering Substitution: Earthquake and Buddhism, 2018.6.28 Seminario Internacional de Filosofía Japonesa, Facultad de Filosofía y Letras, Universidad Nacional Autónoma de México. (国際会議)
- Deguchi Yasuo, Self as We: Toward a Revival of East Asian Holistic Self, 2018.8.10 Conference for Contemporary Philosophy in East Asia 2018 (CCPEA 2018), invited talk, National Chengchi University, Taiwan. (招待有り、国際会議)
- Deguchi Yasuo, Self as We: Toward a Revival of East Asian Holistic View of Self, 2018.9.18, Invited Talks on Self, Invited Talks Series 1, Center for Philosophy in Practice, National Tsing Hua University, Taiwan.
- Deguchi Yasuo, Self and Contradiction: Toward a Revival of East Asian Holistic View of Self, 2018.9.19, Department Seminar, Department of Philosophy, Tunghua University, Taiwan.
- Deguchi Yasuo, Self as Anyone, New York Workshop for the Cosmos of Dōgen, 2018.10.5, Department of Philosophy, City University of New York, Graduate Center. (国際会議)
- Deguchi Yasuo, Self as We: Toward a Revival of East Asian Holistic Self, New York Workshop for the Cosmos of Dōgen, 2018.10.6, Department of Philosophy, City University of New York, Graduate Center.

- Deguchi Yasuo, Kant and Segner: A New Look on Kantian Mathematical Intuition, 2018.10.18, a special HOPR/GPRG event, Department of Philosophy, UCSD.
- Deguchi Yasuo, Entrustment and Distribution of Somatic Agency: An Observation on Self, 2018.10.19, Kyoto & UCSD joint workshop on self, UCSD. (国際会議)
- Deguchi Yasuo, Self and Contradiction: a holistic self and its formalization, 2018.11.8, Logic, Language, and Ontology: A workshop in honor of the 70th birthday of Toshiharu Waragai, Keio Univ. (国際会議)
- Deguchi Yasuo, Self as We: Reactivating East Asian Holistic Self, 2018.11.10, The 11th Next Generation Global Workshop, Keynote Speech, Kyoto University. (国際会議)
- 出口康夫, 「われわれ」としての自己, 「われわれ」としての生き方, 2018.11.18, 第三回京都こころ会議シンポジウム「こころと生き方: 自己とは何か」, 京都大学
- Deguchi Yasuo, Self as We: Its Structure and Ontology, 2018.12.13, Kyoto University – UC San Diego Workshop on Self II, Kyoto University. (国際会議)
- Deguchi Yasuo, Self as We: From Entrustment of Somatic Agency to a Holistic Self, 2018.12.18, Kyoto Workshop on Self I, Kyoto University.
- 出口康夫, 自己・身体・解離性障害「<われわれ>としての自己」の観点から, 2018.12.15, Fundamenta, 京大医学部精神医学科.
- Deguchi Yasuo, Self and Somatic Agency: Descartes, Dream, Paralysis & Brain-in-a-Vat, 2018.12.21, 心智哲学研究所秋季系列講座, 国立陽明大学, 台北.
- Deguchi Yasuo, Entrustment and Distribution of Agency: Toward Philosophical Reactivation of East Asian True Self, 2019.3.18, invited talk, International Conference on “Selfhood, Otherness and Cultivation: Phenomenology and Chinese Philosophy”, National Chengchi University, Taipei. (国際会議)
- Deguchi Yasuo, Embodied and Holistic Self a la East Asia: Chinese Madhyamaka & Chen and Dōgen, 2019.3.19, Institute of Chinese Literature and Philosophy, Academia Sinica, Taipei.
- Deguchi Yasuo, Distributive Agency, 2019.3.19, Institute of European and American Studies, Academia Sinica, Taipei.
- Deguchi Yasuo, Self-as-We and Its Ethical Implications, 2019.3.22, 2nd Joint Workshop of NTU-Kyoto University on “Self and Subjectivity: from Multi-cultural and Interdisciplinary Perspectives”, National Taiwan University, Taipei. (国際会議)
- Deguchi Yasuo, Self-as-We & Its Ethical Implications, 2019.5.2, World Literature & Philosophies Lecture Series 7, Université libre de Bruxelles/Vrije Universiteit Brussel.
- 出口康夫, <われわれ>としての自己: 東アジア的全体論的自己の哲学的再生, 2019.5.10, 第 193 回 Phileth セミナー, 北海道大学.
- Deguchi Yasuo, Analytic Asian Philosophy, 2019.5.17, International Session, The Philosophical Association of Japan, the 78th Annual Conference, Organizer & Chair, Metropolitan University of Tokyo.
- Deguchi Yasuo, Self-as-We and Consciousness of Somatic Agency: A Reactivation of East Asian Buddhist Thoughts, 2019.5.21, Philosophy Department, Chulalongkorn University.
- Deguchi Yasuo, Entrustment of Agency and Self-as-We, 2019.9.22, 第六回日中哲学フォーラム (The 6th International Forum of Sino-Japanese Philosophy), Key Note Speech, 中山大学(広州).
- Deguchi Yasuo, 233 Self-as-We and Its Implications, 2019.9.26, Invited Talk to Philosophy Department, School of Humanities and Social Development, Shandong University, Jinan China.
- 護山真也, 「有時管見—道元における時間と自己」, A Workshop on Dogen, 京都大学, 2018 年 9 月
- Fujikawa, N. (2018). ‘Speaking of Nothingness’, Colloquium: Recent Issues in Philosophy of Language, June 25, 2018, The University of Tokyo. (招待有り)
- Fujikawa, N. (2018). ‘Paraempty Names and the Strengthened Paradox of Ineffability’, Making Sense of: A Workshop with and about Adrian Moore, July 29, 2018, Kyoto University. (招待有り、国際会議)

- Fujikawa, N. (2018). 'Mereology Meets Paraconsistency', Logic, Language, and Ontology: A workshop in honor of the 70th birthday of Toshiharu Waragai, November 7-8, 2018, Keio University. (招待有り、国際会議)
- Fujikawa, N. (2018). 'Ineffability and Nonobjecthood', What's So Bad about Dialetheism?, December, 15-17, 2018, Kyoto University. (国際会議)
- Naoya FUJIKAWA, Eloquence of Silence? : A Note on Dōgen on Silence, New York Workshop for the Cosmos of Dōgen, 2018 年 10 月 (国際会議)
- Naoya Fujikawa, Eloquence of Silence?: A Note on Dogen on Silence, A Workshop on Dogen, 京都大学, 2018 年 9 月
- Fujikawa, N. (2019). 'Nishida's Logic of Place and Metaphysics of Grounding', 日本哲学会第 78 回大会、International Session, 2019 年 5 月、首都大学東京
- 佐金武「有時管見—道元における時間と自己」を読んで, A Workshop on Dogen, 京都大学, 2018 年 9 月
- Naozumi Mitani, On the Elusiveness of Dōgen's Ontology: BUSSHŌ, INMO, AND SHOHŌ-JISSŌ, A Workshop on Dogen, 京都大学, 2018 年 9 月
- Naozumi MITANI, On the Elusiveness of Dōgen's Ontology, New York Workshop for the Cosmos of Dōgen, 2018 年 10 月
- Shinya MORIYAMA, Dōgen on Time and Self: Reflections on Uji, New York Workshop for the Cosmos of Dōgen, 2018 年 10 月

その他(本事業で主催したシンポジウム等)

- A Workshop on Dogen, 2017 年 3 月 27 日, 京都大学文学研究科, 参加人数約 15 名.
- Dōgen and A Tale for the Time Being: An Interview with Ruth Ozeki, 2017 年 5 月 29 日, 京都大学文学研究科, 参加人数約 30 名.
- An International Workshop on the Cosmos of Dōgen, 2017 年 6 月 22 日, 京都大学楽友会館, 参加人数約 20 名.
- A Workshop on the Cosmos of Dōgen, 2017 年 7 月 2 日, 信州大学人文学部, 参加人数約 15 名.
- An International Workshop on Self and Paradox in Dōgen and Tanabe, 2017 年 7 月 15 日, 北海道大学文学研究科, 参加人数約 15 名.
- Seminar by Julianne Chung, 2017 年 8 月 1 日, 京都大学, 参加人数約 15 名.
- 道元の「自己」についての学際ラウンドテーブルトーク, 2017 年 9 月 11 日, 京都大学文学研究科, 参加人数約 5 名.
- A Workshop on Dōgen, 2018 年 3 月 7 日, 京都大学吉田泉殿, 参加人数約 15 名.
- A Workshop Dogen, 2018 年 9 月 8,9 日, 京都大学, 参加人数約 10 名
- New York Workshop for the Cosmos of Dōgen, 2018 年 10 月 5, 6 日, ニューヨーク市立大学, 参加人数約 20 名
- 第 193 回 Phileth セミナー「<われわれ>としての自己: 東アジアの全体論的事故の哲学的再生」, 2019 年 5 月 10 日, 北海道大学, 参加人数約 30 名